



# ハカル ワカル 広場 だより

八王子市民放射能測定室

第 3 5 号

2021.3.20 発行

発行元 八王子市民放射能測定室 ハカルワカル広場  
〒192-0053 八王子市八幡町 5-11 八中ビル 2F

HP <https://hachisoku.org> ① [hachisoku@gmail.com](mailto:hachisoku@gmail.com) ☎ 042-686-0820

郵便振替口座：00180-8-290904 八王子市民放射能測定室



2021 年 1 月 9 日 竹峰誠一郎さん講演会要旨

## 「核と原発のない世界」へむけた展望と課題

核兵器禁止条約、グローバルヒバクシャ、そして福島第一原発事故を結んで



昨年 2020 年 7 月 29 日、「黒い雨」訴訟の判決がありました。原爆投下からほぼ 75 年を経ての判決で「84 人全員被爆者認定」という全面勝訴でした。これは「被爆者とはいったい誰か？」ということをも改めて問い直す裁判でした。私たちが忘れてはならないのは、「被爆者」とは一体誰なのか、いまだに確定していないということです。核の被害をわかったつもりになってはいけないということを教えてくれる判決でした。

そもそも「被爆者」という言葉はいつごろ生まれて世に広まったのか。1952 年 8 月 6 日、アサヒグラフが「原爆被害の初公開」という特集を組み、これが全国に原爆の被害者たちの存在を広げるきっかけになりましたが、ここには「被爆者」という

言葉は出てきません。1957 年、原爆投下から 12 年近くたって「原子爆弾被爆者の医療等に関する法律（原爆医療法）」ができた。これにより被爆者の手帳制度が生まれ、国の責任において原爆被害を受けた方の医療費が無料になるということが行われるようになった。その対象者の名前が「被爆者」です。この法案作成過程の文書には、援護対象者の範囲は当初「広島、長崎の被爆者だけでなく、水爆実験被災者や今後生ずるとされる原子力工業に基く被災者等も含まれていた」とある。それが制定過程の中で広島、長崎の原爆被害者に限定されていったのです。この「被爆者」という言葉がローマ字の「hibakusha」となり、いま世界で一定の広がりをもっています。

核兵器禁止条約が 2021 年 1 月にいよいよ発効します。その前文にも「hibakusha」の言葉は明記されています。核兵器禁止条約が極めて画期的なのは、はっきりと目指すゴールは核兵器の禁止とし、さらには開発、実験、生産、保有、使用、威嚇まで、全面的に禁止しているという点です。しかも核兵器の被害者（広島、長崎）と、核実験の被害者を対等に位置付けている。また、核開発が先住民族に過重な影響を与えてきたことや、将来世代の健康に重大な影響を与えること、さらには女性および少女に不均衡な影響を与えるというジェンダーの観点も核兵器禁止条約には入っています。これまでの国際条約は核兵器を外交問題として、あるいは国家の安全保障上の問題として考えてきたが、核兵器禁止条約はそうではなく、核被害を幅広く見た上で禁止を定めるとともに、「被害者に対する援助及び環境の回復」、「国際協力および援助」、「核兵器その他の核爆発装置又は実験の被害者のための援助を提供する」と謳っています。これを押さえた上で、マーシャル諸島の核実験の問題に進みます。

広島、長崎の原爆投下とマーシャル諸島の核実験は、戦中と戦後で単純に切り分けられるものではなく、アメリカの核開発の歴史の目線で見ると切っても切れない関係にあります。そもそもなぜ、アメリカはマーシャル諸島で核実験をしたのか。アメリカの公文書を調べると、世界初の核実験「トリニティ」（1945 年 7 月 16 日ニューメキシコ州）の経験から、核実験はアメリカ本土から遠く離れた場所で行う

ことにしていた。場所の選定に関わった人物は「マンハッタン工兵管区」の総責任者グローブスや、「エノラゲイ」に搭乗し原子爆弾投下の指揮を執った W. S. パーソンズなどです。つまり、マンハッタン計画の中心人物がそのまま、マーシャル諸島の核実験を準備し実施したのです。

マーシャル諸島の核実験は太平洋の大海原で行われたように思われるかもしれませんが、そこには現地の住民が住んでいました。1946 年 3 月、核実験場建設にともない住民の強制移住が行われた。マーシャル諸島は日本と深い関わりがあります。日本は 1914 年から 44 年までの 30 年間、「南洋群島」という名でマーシャル諸島を統治下に置いていたからです。マーシャル諸島は太平洋戦争の激戦地ともなり、日本軍が玉砕し、その後アメリカ軍が入ってきて自由に使えるようになった。だからここが核実験場に選ばれたという歴史的な繋がりがあります。今もなおマーシャル諸島には日本由来の名前（モモタロウ、キンタロウ、イチロウ、ミズタニ…）や、日本語由来のマーシャル語（デンキ、ヤキュウ、バクダン、バカヤロウ、コマッタナア…）があります。

マーシャル諸島は 29 の環礁と 5 つの島からなっています。環礁は、サンゴ礁が隆起してできた小さな島が円を描くように連なってできています。その円の内側のラグーンと呼ばれる所は湖のような空間で、外側はオーシャンと呼ばれる太平洋の大海原です。陸域の面積を足し合わせると、181 平方キロと小さい。しかし海域（ラグーン）は 1 万 1670 平方キロ、排他的経済水域は約 213 万平方キロで中国より大きいです。人口は 5 万人強、アメリカにも移住しています（2010 年米国情勢調査 22, 434 人）。

アメリカはここで、1946 年から 58 年にかけて、67 回も原水爆実験を繰り返した。その 67 回の威力は、広島型の原爆にたとえると 7000 発分以上になります。一般的には「冷戦」と呼ばれる時代に行われたことですが、現地の人は「第二次世界戦争とは異なる戦争が続いていたのだ」と言います。「我らの島々は、冷戦の『グランド・ゼロ』（最も壊滅的な被害を受けた地）なのである」（ロンゲラップ環礁自治体長ジェームス・マタヨシ）。

67 回の原水爆実験の中でもとりわけ世界的に知られているのが 1954 年 3 月 1 日の水爆実験「ブラボー」です。これで第五福竜丸が被災したと同時に現地の住民も被曝した。被曝だけではなく、「プロジェクト 4・1 放射線被曝した人間に関する研究」の対象にされた。その調査報告には「医療情報の観点から非常に重要になってくるであろうし、また軍事的観点から、放射性降下物の影響を省察するうえでも拠り所になることは疑いないだろう」（米原子力委員会生物医学部門会議ジョン・バーガー）とあります。1954 年 3 月 1 日の核実験で直接被曝をした住民は米軍基地に収容され、その後もう一度島に戻されます。ウトリックの住民帰島時の米側の記録は、「かれらが住んでいる島は、住むには安全であるが、世界で群を抜いて最も汚染された場所である」「汚染された環境で人間が住む際の基準が得られる」「かれらは西洋人のような生活はしておらず、文明人でないことは事実である。しかしネズミよりは、われわれに近いこともまた事実である」（1956 年 1 月第 53 回原子力委員会・生物医学部諮問委員会）。同じ人間とはまったく扱われていないわけです。さらにブラボー実験から 3 年後の 1957 年にロンゲラップ住民も帰還させられます。この時の米側の記録には「放射性物質の利用が、研究や産業の分野でますます普及し、…人間が被曝する可能性が増している。…被曝したマーシャルの集団は、放射線の照射（外部被曝）、ベータ線熱傷（体表面汚染）、放射性物質の体内吸収（内部被曝）という、予測し得るすべての被曝を受け負傷しており、最も価値あるデータを提供する」（1957 年 3 月追跡調査責任者）とあります。

では、こうしたことは過去の問題なのか？ いまマーシャル諸島に行くと、見た目はものすごく綺麗です。しかし、実験場になったビキニの人も、近くの島ロンゲラップの人も「核の難民」となり戻っていない。1946 年から 74 年経ちますが、今なお自分たちの土地から切り離された生活を送っているのです。土地から切り離されるとはどういうことなのか。ロンゲラップのある男性の言葉を紹介します。「われわれにとっての土地は、アメリカや西欧社会、あるいは日本の土地とは違う。土地というのは、われわれと共にあり、われわれの身体の一部だ。土地はわれわれの心臓部でもある。土地が奪われ、身体が引きちぎられ、心臓がとられたのだ」。

マーシャル諸島というのは一つの島ではなく、小さな島々が円を描いて連なる環礁で成り立っています。人々は一つの小さな島に閉じこもって生きていたのではなく、海に開かれて生きていたのです。カヌーに乗って小さな島々を行き来し、ココヤシや海鳥を採って生活していた。しかし今のビキニの人びとの移住先の一つキリ島は、一つの単純な島です。外に出られないので海洋民族として暮らすことがで

きず、彼らもっていた力が生かせない。それでアメリカが援助する缶詰を食べる毎日です。ある男性は言います。「われわれビキニの人は伝統的な生活技術をすっかり忘れてしまった。カヌー作り、木登り、潜り漁も。寂しいが自分もできない」。自分たちの土地から切り離されると、暮らしや文化そのものに影響を受けてしまう。しかも移住が長期に渡ると、土地との結びつきを保つのが難しくなり、「ロンゲラップのアイデンティティーをどう築いていくのかも問題」になります。これは現在進行形の問題です。

また、放射能汚染は体にも及びますので『あの爆弾』の前には見られなかった（新しい）病気が出てきたと住民は言います。医学的に調査され、注目されているのは甲状腺腫瘍と癌です。しかしそれだけではなく、出産障害（流産／死産）、先天性障害を持った子どもも多いのではないかと人類学者の間では言われています。あと「原爆ぶらぶら病」を想起する訴え、やる気がなくなるという話を聞きます。しかし、何人が癌や甲状腺腫瘍になったか数えてみても核実験の被害は見えてこない。「甲状腺の手術はした。しかしすべてを取り除いたのではない。悲しみは心の中にある。外からは見えない」というのがあるロンゲラップの女性の訴えです。

マーシャル諸島の核実験被害は、ビキニ、エニウエトク、ロンゲラップとウトリック、ほぼこの4つの地域の問題だとされてきており、アメリカもそう言っていますが、その外にも自分は被害者だと訴え続けている人たちがいます。マーシャル諸島全域が被曝地であり被害者であったというのがマーシャル諸島政府の基本的な認識です。

さらに、核実験後の後片付けもいろいろな問題を引き起こします。例えば核実験後の汚染物質の封じ込めです。エニウエトクでは、実験でできた大きな穴をコンクリートで埋めて汚染物質や除染作業で出た汚染物を収めました（ルニットドーム／直径約 111 メートル、高さ約 8 メートル）。現在はヒビが入っていて漏れ出しているのではないかという問題とともに、海面上昇で沈むのではないか、気候変動で嵐などが多くなっているという問題もあります。マーシャル人から見ると、核実験の問題は今なお未解決であり、その上に海面上昇の問題が降りかかっている。これは共に自分たちが招いた問題ではなく、世界の構造が招いている問題なのです。

また、マーシャル諸島には今も米軍基地があります。クワジェリン環礁はミサイル実験場になっていて、ここで核弾頭を搭載可能な大陸間弾道ミサイルの発射実験をやっている。マーシャル諸島は今なおアメリカの核開発に組み込まれているのです。



マーシャル諸島では、3月1日は休日になっています。そこでアメリカ政府代表はこんな演説をします。「核実験という形で、冷戦時代にマーシャル諸島民が果たしてきた自由主義世界への防衛協力に対し、心から感謝の意を表したい」（2004年3月1日モーリス・マーシャル諸島駐在米大使）。これに対し、マーシャル諸島では3月1日を核実験の被害や犠牲者を思い起こす追悼の記念日としています。そして、今なお核実験の影響は続いている、補償は不十分であると訴え、アメリカ政府に対し、核がもたらした被害の現実にきちんと向き合うようにと訴えます。そのと

きのキーワードは復興ではなく”Nuclear Justice”（核の正義・公正）です。マーシャル諸島での核開発をめぐる様々な不正義、不公正、人間として扱われてこなかった不平等を転換させ、公正な解決、正義を求める、それが核実験問題の解決の道であると訴えています。

みてきたマーシャル諸島の話は小さな島の話ではありません。「グローバルヒバクシャ」の視野をもつことが大事です。例えば旧ソ連の核実験場だったカザフスタンには、核実験による被害者に発行される手帳を持つ人たちがいます。ニューメキシコには、「自分たちは世界で初めての原子力がもたらした放射能汚染の被害者である」と訴える人たちがいます。またウラン鉱山開発の現場から、プルトニウム生産の現場から、そして核兵器の組み立てから後片付けに至るまで、核被害者はまさに世界に拡散しているのです。「グローバルヒバクシャ」の視野を持ち、それぞれの地域で派生する核被害を小さな問題として埋もれさせず、国境を超える視野を持つことにより、核の時代がより立体的に見えてくるのではないかと考えています。

（報告 石井暁子）

## 「原発の断りかた」いかにして人びとは海と命を守ったか

2020年11月7日 柴原 洋一さん ハカルワカル広場オンライン講演会

報告文 二宮志郎

「戦いが苦しい時は、南島町の人びとのことを思い出してください。」

この言葉で柴原さんの講演が終わった時、実際に戦ってきた南島町の人たちの姿がまぶたの裏に浮かんで来て、思わず「ありがとうございます」と頭を下げそうになりました。

「南島町の人びとのことを思い出す」ことが、どれほど私達に勇気を与えてくれるのか、それを語ってくれたのが柴原さんの講演でした。

1963年、まだ日本には商用原発が一基もなかった時に、突如として原発建設計画が熊野灘の漁村に持ち込まれました。当時、「そもそも原発って何」という問いに答えることができそうな人は周りに誰もいないというような時代でした。

後から振り返れば、原発建設反対第一回戦とも言える攻防が、1963年から1967年の間にありました。漁民たちは、「原発って何やろ？賢い人に聞いてみよう！」ということで、東大に行って詳しく人から話を聞くことから始めます。

そして、自分たちで勉強した内容をもとに原発反対の論理を組み立てていきました。

1964年の古和浦漁業協同組合・原発反対決議提案理由書には、以下の5点に整理して主張されています。

1. 原子力発電所は未だ実験段階ともいわれ未解明な点も多い。万一を考えて辺地を選んだと思われる。
2. 放射能による海の汚染、大量の冷却水による水産資源への影響が考えられる。
3. 放射能による人体への影響も考えられる。また魚に蓄積されるようである。
4. 廃棄物の処理は完全ではなく、問題は多いようである。
5. 全国的にも有名な熊野灘漁場を犠牲にしてまで建設さす必要はない。

自分たちで勉強して、団結した反対運動を作り上げ、圧倒的多数の南島町民の支持も得て、まともに民主主義が機能すれば、「あっさり原発建設計画をはねのけて、それでお願いします」となっていて当然な気がします。しかし、「原発に関わることになる」とそこには政治があり、あたりまえのことが通用する世界でなくなる」ということはすでにこの時からあったようです。

原発建設をめぐる手続きは、公開ヒアリングは名ばかりで、実質的に地元住民の意見が反映される余地はほとんどなく、知事が同意してしまうと、いくら地元住民の反対の声が強くても止めることはできない仕組みになっています。

約束を反故にされ、偽りの言葉に愚弄され続けた住民たちは、残された手段は「実力阻止」しかないと考えます。そして、1966年9月19日、中曽根康弘氏を含む衆議院特別委の一行を漁民たちは漁船で取り囲み視察を阻止します。後に大勢の漁民が逮捕・起訴されることになる長島事件です。

漁民たちの反対運動にとっては大きな打撃にもなりましたが、この事件は漁民たちの強い結束と反対の意志を世間に知らしめることとなり、1967年、田中知事が「終止符声明」をだすことにつながりました。

第一回戦の勝利がここにあったわけです。

第一回戦という呼び方が示しているように、その先には第二回戦があります。



1967年～1984年の間、中部電力は影で様々な工作を行っていたようでしたが、これと言って表立った事は起こりませんでした。

1984年、田川知事が3,000万円の原発予算を計上しました。これが推進派側からの第二回戦宣言布告でした。

第一回戦の敗北に学んだ中部電力は、徹底した反対派漁民の分断工作に出ます。「原発建設に関わる漁業権を持つ古和浦漁協を落とせば、後はなんとかなる」という思いから、古和浦地区への集中攻撃を開始するのです。それがいかなる地域破壊をもたらすことになるのか、それが地

域住民にとってどれだけ悲惨なことであるのか、中部電力はもちろんのこと、行政も、マスメディアも、そして多くの都会の人々も、目を向けることもなければ、真剣に考えようとすることもませんでした。

そういう苦しい状況の中でも、南島町民は、第一回戦のときから世代交代した若者が中心になり、様々な工夫をこらした反対運動を繰り広げていきます。

1993年1月17日には、実に全町民人口の1/3以上を集めた3,500人デモを実施します。このデモの最後尾の方に100人くらい、都市部から来た参加者もいました。実は私（二宮）はその中の一人で、その時の感動を28年前に以下のように報告していました。

実に感動的なシーンだった。旗振り部隊の前をすれちがう、おっちゃん、おばちゃん、にいちゃん、ねえちゃん、みんなものすごくいい顔をしている。すれちがうお互いが互いに手を振り励ましあい、かけ声を合わせる。



旗振り部隊のにいちゃん達は、いったいどこまで体力があるのだろうか、延々旗を振り回し続けている。ニコニコしながら、隣のやつに振り回し方で負けてなるものかという勢いだ。

原発に反対することが、こんなにまでうれしいことなんだろうか。

あ、でもそうか、そうに決まっているのだ。何か自分までとてもうれしくなってきた。「セーノー」に合わせて叫ぶ私の「芦浜原発、ハンターイ」にも一段と力がこもる。

ここでも再び同じことが言えます。町民の1/3の人たちが、デモでこれだけの団結を示して反対の意志を示しているのですから、「勝負あった、おしまい」となるはずなんです、そうならないところが原発をめぐる政治です。

中部電力の工作で原発推進派が多数になってしまった古和浦漁協で海洋調査受け入れを決議しそうな漁協総会が開かれる、その日が緊迫した大きな山場となりました。1994年12月15日でした。南島町民2000人が古和浦漁協前に座り込みました。200人の機動隊がごぼう抜きにかかるのにもめげず、18時間の座り込みで、ついに実力で漁協総会の開催を阻止することに成功しました。

南島町民の強い意志を見せつけられた中部電力は、しばらく冷却期間を置く作戦に出ます。町民側は、町長の調査同意には2/3の同意が必要とする海洋調査町民投票条例を制定することで、ひとまず差し迫った危機を回避することに成功します。

中部電力が諦めずに次の攻撃を狙っている以上、気を緩めることはできません。もう一つ先手を打って、原発反対の断固たる三重県民全体の意志を突きつける運動に出ます。それが、「三重県に原発いらない県民署名」です。1996年、半年間で県民の57%にあたる81万人という驚くべき数の署名を集めて三重県庁に提出します。

さすがに三重県知事も県民全体の声と南島町民の粘り強い戦いを無視することはできなくなり、2000年2月22日、「芦浜原発白紙撤回」を宣言します。

37年間の南島町民の戦いは勝利をもって終結しました。

柴原さんのスライドは問いかけます。

人間はいつまでこんなことを続けるのでしょうか？

地域を守る責任は誰にあるのでしょうか？

どうしたら安全で安心できる暮らしを作れるのでしょうか？

いろいろな困難があります。でも、真剣になんとかしようと思った時、

「戦いが苦しい時は、南島町の人びとのことを思い出してください。」

この言葉が、心に染みるのではないのでしょうか。

## 2020 年 12 月 5 日お茶会 寸劇『こどもたちは自分で考える』 & 意見交流会 報告

12 月のお茶会は、二宮さん脚本の寸劇『こどもたちは自分で考える』を ZOOM バージョンで上演した後、参加者の皆さんと意見交流を行いました。

山中で迷った子どもたちが、先生が示した平均的なリスクを避ける帰り道ではなく、自分たちで考え話し合い、それぞれにとって一番良いと思う帰り道を選ぶという内容の寸劇を見て、「話し合っただけで納得することが大事」「権威に惑わされず自分の判断でやる」「自己判断で選択するには知識をどこから得るのか、判断の基準が難しい。ハカルワカルのように自ら測定したり、話し合う場を作るのが大事」「批判の目を持つためには、本や記事を読み考えるなど時間がかかるが少しずつ身につけていく」などの意見が出ました。また、「専門家が中立というのはいない」「汚染水の処理問題で学者が保管を言わず、予め枠にはめられた意見しか言わない」との指摘に対し、「専門家の立ち位置を調べた方がよい」「反対意見の人の情報も適宜インプットする」「科学的に正しいことが、危険をさける為の情報とは限らない」など。二宮さんから「放射能の問題も、基準値、許容量と数字に落とし込む。全体から見れば正しいのかもしれないが、人々の苦しみなど数字に表れないことも多い。数字で判断することの怖さを寸劇で表現した」とのお話がありました。そこから、「人の気持ちや思いも入れて判断することが大事」「日本では意思決定の時に倫理が足りない」などの意見がでました。

そのほか「ハカルワカル広場にいると、いろいろな意見を聞いて考える機会を得られるのがいい」「ハカルワカルの HP には貴重なデータがたくさんある。データをもとに深掘りし、情報を自分に引きつけるのが大事」「子どもは自然に自分で考えるようになるわけではない。自主性を育てるのが大事」「子どもたちに原発事故のことが伝わっていない」「子どもが安全アピールに使われるのが悔しい」「コロナの影響で甲状腺検査が中止になり活動が縮小してしまう恐れがある」「電力会社はどこにしていますか？」などなど貴重な意見や質問が飛び交う有意義で楽しい意見交流会となりました。（報告 石井暁子）



## ハかってワかった話

二宮 志郎

あの日から 10 年が経ちました。この連載も 35 回続きました。ハかってワかった話とは、結局「はかってもわからないことをわかった」と、そういうことだったのではないかと思えるぐらい未だに何もわかっていません。フクシマの被害にあった人たちの悲しみと怒りの量は決して測れません。世界中にいる核の被害にあった人たちのそれには気づくことすら稀です。

10 年という歳月の中で、Cs134 の 2 年の半減期は 5 回分すぎました。1/2 の 5 乗で 1/32 に減りました。Cs137 の方は半減期 30 年ですから 1/3 回分しかすぎえていません。直感しにくい計算になりますが 1/2 の 1/3 乗ということで、0.8 倍に減りました。

### 灰のデータで比較する

昨年の 12 月、町田市の灰の測定を行っています。Cs137 が 51Bq/kg 検出されています。これと同じような数値が検出されている灰のデータでできるだけ古いものとして 2013 年 1 月に測定した日野市の灰のデータを比較してみます。



Cs137の存在を示す662keVのピークは両者のグラフが同じくらいの高さに来るのですが、Cs134の方は2020年のデータではピークはほとんどありません。この両者の測定の間は約8年なので、Cs134の減少は1/16になります。2020年の測定ではスペクトルを見ても存在がよくわからないほどわずかに減ってしまっています。

## 1/32の減少でもなくなっていない

10年経って1/32になると、八王子レベルで汚染されている土壌の測定ではほとんど存在が見えなくなりますが、少し激しく汚染された地域

で元が1000Bq/kgであれば、今でも31Bq/kgということで十分検出できるレベルで存在します。

フクシマ事故で大気中に放出されたCs134の総量は18ペタベクレルと見積もられています。ペタというのは0が15個並ぶ桁のことです。総量としては、1/32になってもまだ0.6ペタベクレル(600兆ベクレル)程度残っているということになります。ちなみにCs137の方は15ペタベクレル放出されたとされていて0.8倍に減って現在12ペタベクレル残っているということになります。これらがどれだけ生物と地球を傷め続けているのか、測る手段はありません。

## 測定結果 (2020年10月～2021年3月15日現在)

ゼオライトの測定値は初期値引き算前 (Cs134の初期値は30Bq/kg程度)

検体	採取	県名	採取地	検体重量(g)	測定容器(cc)	Cs137 (Bq/kg)	95%範囲 (±Bq/kg)	Cs134 (Bq/kg)	95%範囲 (±Bq/kg)	備考
土	2021.1	東京都	西東京市南町	1049	1000	1,400.0	280.0	81.0	16.2	土壌プロジェクト
土	2020.12.6	東京都	八王子市小比企	690	1000	701.0	140.0	50.9	11.4	土壌プロジェクト
土(排水口)	2020.11.23	東京都	八王子市北野台	580	1000	400.0	80.0	36.3	9.0	土壌プロジェクト
雨樋下の土	2020.12.1	東京都	八王子市北野台	1316	1000	351.0	70.0	44.8	9.6	土壌プロジェクト
土	2021.1	東京都	西東京市柳沢	616	1000	321.0	64.0	26.5	7.1	土壌プロジェクト
土	2020.12.7	東京都	八王子市北野台	674	1000	162.0	32.0	15.9	5.1	土壌プロジェクト
土	2021.3.9	東京都	八王子市八幡町	1241	1000	100.0	20.0	16.2	4.2	土壌プロジェクト
土(里山の土)	2020.11.17	東京都	八王子市中山	831	1000	98.9	19.8	13.3	4.2	20111801の再測
土(里山の土)	2020.11.17	東京都	八王子市中山	831	1000	96.5	19.5	13.2	4.2	土壌プロジェクト
土	2021.3.10	東京都	西東京市保谷町	702	1000	82.0	17.4	15.8	5.1	
田んぼの土	2020.11	東京都	町田市相原町	765	1000	59.7	13.4	23.6	6.3	土壌プロジェクト
ゼオライト	2021.2	静岡県	御前崎市	925	1000	37.8	9.2	39.4	9.0	御前崎B
庭の苔(土付)	2020.11.17	東京都	八王子市北野台	615	1000	60.2	13.6	12.7	5.0	土壌プロジェクト
土	2021.3	東京都	西東京市南町	855	1000	60.8	13.1	12.1	4.1	土壌プロジェクト
田んぼの土	2020.11	東京都	町田市相原町	1074	1000	44.8	10.0	20.6	5.2	土壌プロジェクト
樹木灰	2020.11.3	神奈川	町田市の公園	518	1000	50.9	11.5	11.5	4.5	60分測定
土	2020.12.14	東京都	八王子市長沼	811	1000	51.5	11.4	9.9	3.8	土壌プロジェクト
ペレットの灰	2020	岐阜県	南飛騨	176	1000	30.7	24.1	67.2	26.0	Cs134は誤検出
土	2020.12.15	東京都	八王子市北野台	1052	1000	39.1	8.8	16.6	4.4	土壌プロジェクト
土	2020.12	東京都	八王子市松が谷	1055	1000	36.2	8.3	15.0	4.1	土壌プロジェクト
土	2020.12.15	東京都	八王子市北野台	1153	1000	26.6	6.6	22.6	5.4	土壌プロジェクト
土	2020.12.7	東京都	八王子市北野台	1168	1000	31.7	7.3	14.6	3.9	土壌プロジェクト
山道の脇の土	2020.11.6	神奈川	相模原市緑区	768	1000	37.9	8.8	4.9	以下	土壌プロジェクト
掃除機のゴミ	2021.3.9	東京都	八王子市絹ヶ丘	89	1000	36.7	23.4	35.8	以下	60分測定
庭の土	2020.11.17	東京都	八王子市北野台	855	1000	32.6	7.7	4.4	以下	土壌プロジェクト
土	2020.12.1	東京都	杉並区	1045	1000	29.9	6.9	3.6	以下	土壌プロジェクト
原木干しシイタケ	2020.11.23	東京都	八王子市	236	1000	24.5	10.2	12.9	以下	60分測定
土	2021.2	東京都	八王子市北野町	669	1000	23.1	6.5	5.8	以下	土壌プロジェクト
ヒメシャラ	2020.11.27	東京都	八王子市本町	320	1000	15.5	7.0	9.4	以下	60分測定
土	2021.3.10	東京都	西東京市保谷町	1277	1000	15.3	4.6	19.5	4.8	Cs134は誤検出
土	2021.2	東京都	八王子市北野町	828	1000	11.4	4.3	4.6	以下	土壌プロジェクト

2021 年 2 月 6 日 宮澤弘道さん講演会まとめ

## 「教育の現場から—放射能教育の問題点」

2月6日のお茶会は現役の小学校教諭の宮澤弘道さんに上記のタイトルでご講演いただきました。内容も濃く刺激的で、かつ、話し方も明快でわかり易いと大変好評でした。以下概要です。

### \* 教育現場の現状（階層制で管理される学校現場。職員会議は校長の諮問機関に）

ほぼ 15、6 年前から東京都（おそらく全国も）の学校現場はそれ以前の「なべ蓋式」（校長、教頭のみが給与表も違う管理職で、他の教員は全員平等の教諭）から、5 段階のピラミッド型の階層型職場（1. 統括校長、校長、2. 副校長、3. 主幹または指導教諭、4. 主任教諭、5. 教諭）へと激変した。主任教諭と教諭では給与表も違い、主任教諭は教諭の上司となる。例えばある日、30 歳代の主任教諭は 50 代後半の教諭を体育館に呼び出し、児童の「マエヘナラエ」がなっていないかとして「指導」を行ったという。経験豊かな 50 代後半のベテラン教諭から、30 代の主任教諭は教員として多くの教育実践術を学ぶことができたはずだ。教員としての経験より主任教諭が上司ということで指導するわけである。また、職員会議は「挙手・採決の禁止」の通達により、民主的な議論の場ではなく、校長からの指令の伝達の場と化したのである。

### \* 働き方改革がもたらすもの

教員は、授業のほかに会議、各種調査、土曜授業、学校公開、研究授業などで月に平均 62 時間 30 分の残業がある。だから働き方改革が進められているが、その中で本当に大切なものまで失ってしまわないかと危惧している。例えば学校のサポートスタッフの方に児童のテストの採点まで頼むとどうなるか？ 教員は採点により児童が理解できていない箇所を把握し、のちの授業、指導に反映できるのである。その貴重な機会を失ってしまう恐れがある。さらに、学校教育で最も大切な、これまで勝ち取ってきた学校ごとの「カリキュラムの編成権」を手放してしまう恐れもある。これは結局は教師の手足を縛ることになる。

### \* コロナ禍で広がる教育格差「教育は子どもが目の前にいてその反応を確認しながら行うもの」

コロナ感染防止のために休校措置が取られ、オンライン学習が持ち込まれた。しかし、このオンライン学習で家庭間の環境、経済格差が顕在化した。さらに、「教科書を隅から隅まで教える」ことが求められ、「教科書で教える」ことができにくくなった。これは、世界でも日本だけで、世界の他の国は教科書は副読本の扱いで先生の裁量が大きい。また都教委はコロナ禍でも「君が代斉唱」を重視した。

### \* 放射能教育「3.11 前」、「3.11 後」、「これから」

3.11 以前から、宮澤個人としては知人に原発作業員がおり癌になったため、弱者の犠牲の上に成り立つ発電方式には反対の立場だったが、文科省は「原子力はクリーンな未来のエネルギー」と教える方針だった。反原子力教育は全く相手にされなかったが、その当時の教え子で原発事故以後、反原発運動をしている人がいる。

3.11 後は、教科書にはほとんど原発事故、放射能の記述がない。放射能副読本を配布して「正しく怖れる」の大合唱。教科書に記述がない理由は、「学習指導要領」に書かれていないため。今後予想されるのは、教科にはねじ込む余地がないため、「総合的学習の時間」に原子力推進の副読本が提供され、ねじ込まれる怖れがある。現在は副読本を教えず、学年末に配布している。次の指導要領改訂で「原発推進」が教科書に入る可能性があり、入ってしまえば教員は教えざるを得なくなる。

### \* これからの原子力教育

1. 公害の歴史を深く学ぶ・・・福島事故は水俣病を始めとするこれまでの公害と構造が同じである。チツソが東電に、水銀が放射性物質に変わっただけで、国策で推し進めた点や御用学者の存在、そして弱者が最も重い被害を受けるという構図は全く一緒。よって公害の歴史を深く学べば、おのずと福島事故が深く学べる。
2. 科学に基づく学びの提供を諦めない・・・ハカルワカル広場のように科学的に測定し、その結果に基づいて判断することが大切だと考えている。この姿勢を諦めてはいけない。

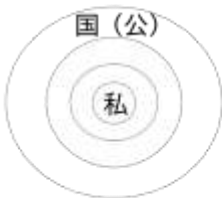


3. 主権者教育が大切である・・・大人にはもっと政治に関心を持ってもらい、児童には主権者は国民（市民）だという教育をすることが大事。それには教員自身が主権者とはなにかを理解する必要がある。教員は政治活動に制限がある、と聞いたある若い教員が、「投票に行っていないのか？」と問い、驚いた経験もある。

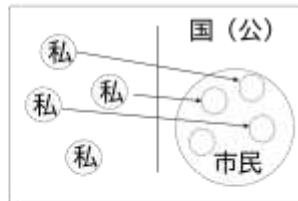
\* 日本人の意識について

## 国家観を問う

同心円的国家観



立憲主義が前提とする国家観



日本人の大学生と、他の民主主義国の大学生に「自分の国のイメージを描いてください」と問うと、日本人は、国土を描く。他の民主主義国の大学生は「三権分立」のような国のシステムを描く。さらに、国家観を問うと、日本人は自分が同心円の真ん中に位置し、その周りを国家が包囲している。（つまり、国家の中の自分という意識であり、お国のためや組織のために個人が犠牲になることは道徳的に正しいこととなってしまう）しかし本来の立憲民主主義国のあり方は、プライベートな個人と国家が同等

に拮抗し、国家には一市民として関係しているイメージ。この日本人の同心円的国家観は戦前と変わらない。だからこそ、平和教育が大事であり、立憲民主主義教育が必要である。私自身は高校生の頃、東ティモールに井戸掘りに行き戦争を体験した。だから平和教育をしたいと教員になった。

\* 理想を語れる教員の仕事

教員の仕事は誰でもできる仕事であり、理想を語れる仕事であり、そして、半径1メートル（自分や、自分に近い人を愛することを意味する）が大切な仕事である。

### 【Q&A コーナー】

講演が終わり、講演の熱気が覚めない中で、活発な質問が寄せられ、宮澤さんの丁寧な回答がありました。スペースの関係で代表的な質問に絞ります。

Q なべ蓋式の職階制からピラミッド式の職階制になったのはいつごろか？

A 石原都政になり君が代斉唱の強制通達が出された（2003. 10. 23）のを機に、その後5年ほどでピラミッド型の5段階職階制は完成した。

Q 学習指導要領は一般の人も読めるのか？

A 本屋さんで注文すれば入手できる。指導要領解説本が読みやすい。例えば、明石書店刊『2017小学校（中学校）学習指導要領の読み方・使い方 「術」「学」で読み解く教科内容のポイント』など。

Q 主権者教育について大学生はどうか？ また実教出版が出している教科書には「放射能測定」が詳しくあったがどういう出版社か？

A 大学生の「主権者教育」については厳しい現状。ある時、大学生が「難しい問題は政府に決めてもらえばよい」といったので、啞然とした経験がある。実教出版は理科系に強い会社で良心的な教科書を出しているが、日の丸君が代問題の記述をしたため都教委の指導を受けた。外からの圧力があり現状は厳しいと聞いている。

Q コスタリカのように「考える力」を付ける教育をしている国と日本のような「上意下達」教育のギャップはどのようにしたら埋められるか？

A 教員一人一人が「教育哲学を持つこと」そして市民はもっと政治に関心を持ってほしい。それしかない。

最後に「ギガスクール構想」について一言。これは大変な危険をはらんでいる。生徒のプライベートな学校が知りうるあらゆる情報をデータ化し、最後は AI に進路指導までさせようとするものである。生徒情報の一元的管理につながる危険がある。 (報告 西田照子)

## 本の紹介



## アトミック・エイジ 地球被曝はじまりの半世紀

豊崎博光著 築地書館 1995.11.13 初版発行 (写真 127p、本文 146p)

これまで世界は、ウラン鉱石の採掘と精練・転換・濃縮、軍事用核物質の製造と核兵器製造、核兵器の火災事故、核実験、原子力発電用の燃料製造と原子力発電、原子力発電所の事故、使用済み核燃料の再処理、核物質の輸送、核廃棄物の処理と投棄、核物質の盗難と密売などによって、膨大な数の被曝者を生み出してきた。

被曝者は健康を蝕まれるばかりか、精神的な影響も受けている。いまは健康に問題はないが、近い将来病気になるのではないか、自分の子どもたちに被曝の影響が現れるのではないかと恐れている。また、故郷の地が放射能に汚染されたことでその地を離れることを余儀なくされ、故郷の地に根ざした伝統、文化、暮らしが成り立たなくなる。「核サイクル」のすべての過程から生み出された膨大な量の放射性物質と放射線によって地球は放射能に満ち、いまや、核の時代に生きるわれわれはみな核の風下の人びとになった。これまで世界ではいくつかの被曝者大会が開かれてきた。しかし、被曝者の多くは、いまなお被曝者として認められず、補償も受けていない。

## 【編集部メンバーの読後感想】

「グローバルヒバクシャ」という言葉のさきがけは豊崎さんだと思いました。世界の「核の風下の人々」を訪ね歩き、取材を重ねる出発点は、1978年2月11日付の朝日新聞の『終わってないビキニ事件—福竜丸以外にも汚染船 心配される乗組員』という見出しの記事でした。第五福竜丸以外に856隻の漁船が被ばくしていたことを報じていました。この記事に触発された豊崎さんは並みの人ではないと思いました。核被害は北極圏にまで及びます。北極圏のノバヤゼムリヤ島で、大気圏内核実験、地下実験、スーパー水爆（ヒロシマ型の4000倍）実験が行われ、風下にはアザラシ、トナカイがおり、先住民がいるのです。豊崎さんは特に先住民が核被害の風下の人になっていることをエンヴァイロンメンタル・レイシズム（環境破壊が生み出した人種差別）と呼んでいます。ウラン採掘の75%が先住民の住む地域であり、危険な核廃棄物の廃棄も、世界の核実験場もすべて先住民の大地で行われている。どうか豊崎さんの本をお読みになってください。(西田)

前半が写真、後半が文章の本ですが、非常に読み応えがあり、驚くような情報もたくさん詰まっています。その人の内面性まで映し出すような写真を見ながら、その人が語った証言を読んでいくと、視えないはずの核被害が、確かに見えてくるような気がしました。亡くなった親族の遺影を手に、真っ直ぐにカメラを見つめる人々の悲しげな、怒りを押し殺したような表情、故郷に戻れないことを知った人々の絶望した、こちらに訴えかけてくるような瞳が、核被災の深刻さをダイレクトに伝えてきます。核実験で被曝した兵士の証言もたくさんあり衝撃的です。本当に、世界中がいろいろな形で被曝していることが実感できるすごい本でした。(石井)

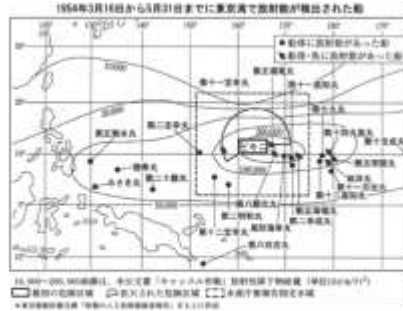
現地を訪れ、ずっと核の取材を追い続けてきたのは、ヒバクシャの叫びを聞いたからだと思う。彼らのかすかな、しかし強烈な声が耳に届き、ライフワークになった。ヒバクシャー人ひとりの証言と公開された公文書などの記述を組み合わせた説得力のある核の年代史が、25年前に出版されていたことを知り驚くばかりである。この本を読んで「核サイクル」というものが、どれだけ人間の生存を脅かすかということが実感される。(佐々木)

豊崎博光(とよさき ひろみつ) フォトジャーナリスト。1948年、横浜市生まれ。復帰前後の沖縄、在日韓国人・朝鮮人、アメリカ・インディアンなどを取材後、1978年にアメリカが核実験を行った太平洋中西部、マーシャル諸島のビキニ島住民や水爆実験のロンゲラップ島住民などの取材をきっかけに、世界の核実験場、ウラン鉱石採掘場、原子力発電所などの施設と放射能に汚染された風下地域に住む被曝者、環境と地域社会への影響などを取材。「私は何度も現場を訪ね、調査取材することで、核の風下の人々の心と暮らしを写真に収めてきた」と語る。核問題を撮影する世界の写真家グループ「アトミック・フォトグラファーズ・ギルド」会員 <https://atomicphotographers.com/>

この本はハカルワカル広場の蔵書にあります。(編集部)



1-2月 第五福竜丸展示館見学とパネル展



2.1 ビキニ事件とはなにか？



5.9 ダイオキシンの危険性

## 原発は温暖化防止に役立たない

7.4 原発は地球温暖化防止に役立たない



8.8 太陽が落ちた日 トークセッション

## 汚染水の海洋放出について



9.5 汚染水の海洋放出について

## 止めよう放射能のばらまき 汚染林を燃やすバイオマス発電の問題点



10.3 バイオマス発電の問題点

ハ王子市民放射能測定室  
**ハカルワカル広場**  
**ハイライト2020**

## 東日本大震災10年

原発事故後10年経って放射能汚染はどうなった？

## 10年目の土壌測定プロジェクト

2020.11-2021.12 10年目の土壌測定

## 原発の断りかた いかにして人びとは海と命を守ったか

11.7 「原発の断りかた」



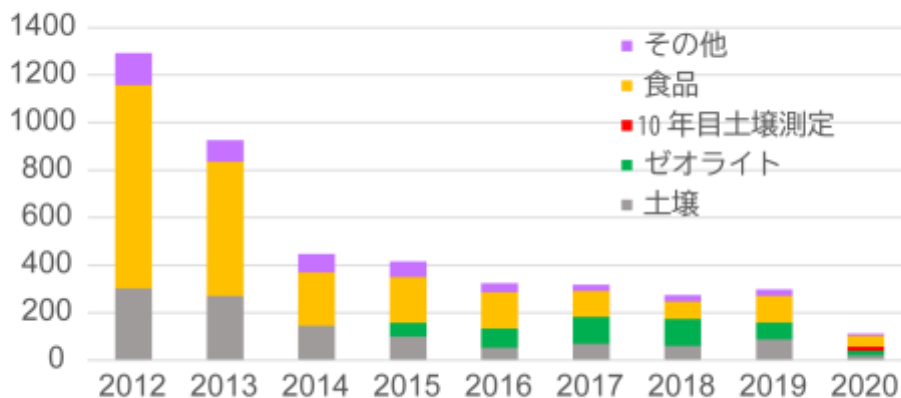
12.5 寸劇「こどもたちは自分で考える」意見交流会

## 2021「核と原発のない世界」へむけた展望と課題

核兵器禁止条約、グローバルヒバクシャ、そして福島第一原発事故を結んで

2021.1.9 「核と原発のない世界」

## 測定検体数2012-2020



	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	合計
その他	135	90	77	65	38	27	27	27	9	495
食品	856	565	225	193	153	109	73	112	46	2332
10年目土壌測定									17	17
ゼオライト				57	80	113	113	71	20	454
土壌	302	271	145	100	53	69	61	88	20	1109
合計	1293	926	447	415	324	318	274	298	112	4407



## 測定室からのご報告とお知らせ

- \* 11月7日(土)11月お茶会オンライン講演会:「原発の断りかた」(講師:柴原洋一さん)  
柴原さんはその著書同様熱く講演され、あっという間の2時間でした。「芦浜原発」を中電に作らせなかった不屈の37年間の漁師と妻たちの闘いを、スライドを駆使し、エピソードを交え語ってくださいました。詳しくは本会報の二宮さんのレポートをご覧ください。(参加者:会場7名、オンライン24名)
- \* 12月5日(土)12月お茶会オンライン意見交流会  
二宮さんの書きおろし脚本の寸劇「こどもたちは自分で考える」を上演のあと、自由な意見交流会をしました。参加者の皆さんに日頃の思いを語っていただきました。(参加者:会場3名、オンライン17名)
- \* 1月9日(土)1月お茶会オンライン講演会:『核と原発のない世界』へむけた展望と課題—核兵器禁止条約、グローバルヒバクシャ、そして福島第一原発事故を結んで(講師:竹峰誠一郎さん)  
核兵器禁止条約が1月22日に発効するという時期にとってもタイムリーな企画と喜んでいただけました。「言葉が現実を切り取る」と言って「言葉」をととても大切にされ、まず「ヒバクシャとは誰か?」に始まり、マーシャル諸島の被災民、そしてグローバルヒバクシャに及びました。「核兵器禁止条約」の画期的な点も語られました。詳しくは巻頭をご覧ください。(参加者:会場4名、オンライン51名)
- \* 2月6日(土)2月お茶会オンライン講演会「教育の現場から—放射能教育の問題点」(講師:宮澤弘道さん) 現役の小学校教諭の宮澤さんの講演は内容は現場の困難な状況ですが、語り口は明快ですっきり引き込まれた2時間でした。感想も多く寄せられ、教育への関心の高さを窺わせました。詳しくは本会報「教育の現場から〜」をご覧ください。(参加者:会場8名、オンライン33名)
- \* 3月6日(土)3月お茶会…諸般の事情で中止させていただきました。大変申し訳ありません!

【ご報告】町田の測定室「はかる一む」さんから昨年10月「無償で借りていた測定室の場所を退去することになり、独立で運営が難しくなり、貴測定室に合流して測定活動を続けたい」とのお話があり、話し合いの結果ハカルワカルへの合流となりました。一緒にやっていければと思います。2名のボランティアと測定器も増えました。ご紹介します。皆さま、どうぞよろしくお願いいたします!

川野孝平:八王子高尾町在住。今回測定器とあわせてお世話になります。ハカルワカルの様々な活動に微力ながら関わっていきたくと思います。

桜井朋広:町田の「元はかる一む」の桜井です。大学の放射線生物学の単位は不可でした。遺伝研くずれの「落研究者」ですが低線量被ばくの議論について何か足しになれば良いかと思ひます。

### これからの予定

- \* 4月3日(土)4月お茶会「測定について」(講師:佐々木晃介さん、二宮志郎さん)
- \* 5月8日(土)5月お茶会紙芝居「愛ちゃんのランドセル」(発表者:菊池和子さん)
- \* 6月5日(土)2021年総会
- \* 7月3日(土)7月お茶会・・・未定

会員が減って困っています。  
お知り合いをご紹介ください!

### 2021年総会のご案内

6月5日(土)10時からオンライン及び会場で総会を開催します。ご参加ください!

「10年目の土壌測定プロジェクト」  
実施中!

測定料無料!

10年前に測定をしていない方も大歓迎!

ハカルワカル広場は維持会員の会費とボランティアで運営されています。

八王子市民放射能測定室  
**ハカルワカル広場**

〒192-0053 東京都八王子市八幡町5-11 八中ビル2F  
お電話  
問合せ **042-686-0820**

HP: <https://hachisoku.org> メール: [hachisoku@gmail.com](mailto:hachisoku@gmail.com)

**ボランティア、維持会員募集中!**  
お問い合わせはハカルワカル広場まで

寄付も大歓迎です! ゆうちょ銀行 00180-8-290904 (八王子市民放射能測定室)  
信付からの振込は 018-0224460 (八王子市民放射能測定室)